

1. ベースライン調査報告
2. 研究協力者2万人突破!!
3. 調査結果報告
4. ベースライン調査終了
二次調査スタートのお知らせ

日ざしの明るさに春の気配を感じるようになりましたが、皆さまお元気で過ごしてでしょうか。2015年度のベースライン調査も昨年に引き続き多くの住民の皆さまからご協力をいただきました。スタッフ一同心よりお礼申し上げます。山形県コホート研究(Yamagata Study)通信では、ご協力をいただいた皆さまに今年度の活動報告をさせていただきます。ぜひ一読ください。

本研究2015年度ベースライン調査報告

2015年12月31日現在 **総協力者数 20,736人**

(遺伝子解析同意者数)

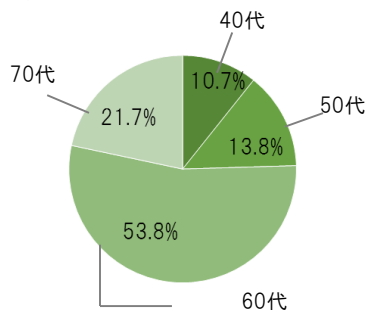
皆さまのおかげで協力者20,000人を突破しました。中面で特集記事を掲載しておりますので、ご覧ください。



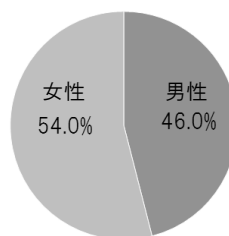
2015年度のベースライン調査は、米沢市と上山市で実施しました。米沢市では41回実施し2,137名の方に、上山市では16回実施し208名の方に研究へご協力いただきました。今年度ご協力いただいた方の年代、男女比については、下記グラフにまとめましたのでご覧ください。ご協力いただいた皆さまより、健康及び遺伝に関するご質問や、ご記入いただいている調査票にご意見をいただくことが多くなり、年々皆さまの健康意識が高くなっていること、そして、本研究の核である「DNA」「ゲノム」の認知度が高くなっていると感じました。本研究のベースライン調査は今年度を以て終了となりますが、皆さまにいただいた貴重なご意見は、今後の調査、研究に活かしていきます。

米沢市

○年代別



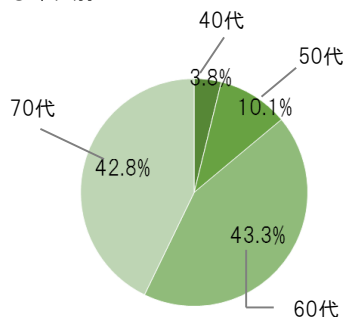
○男女比



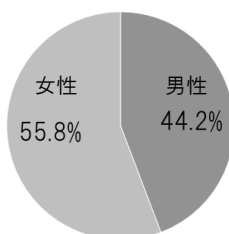
ご協力いただいた方は60代の方が多ようです。男女比でみると女性のほうが多ようです。

上山市

○年代別



○男女別

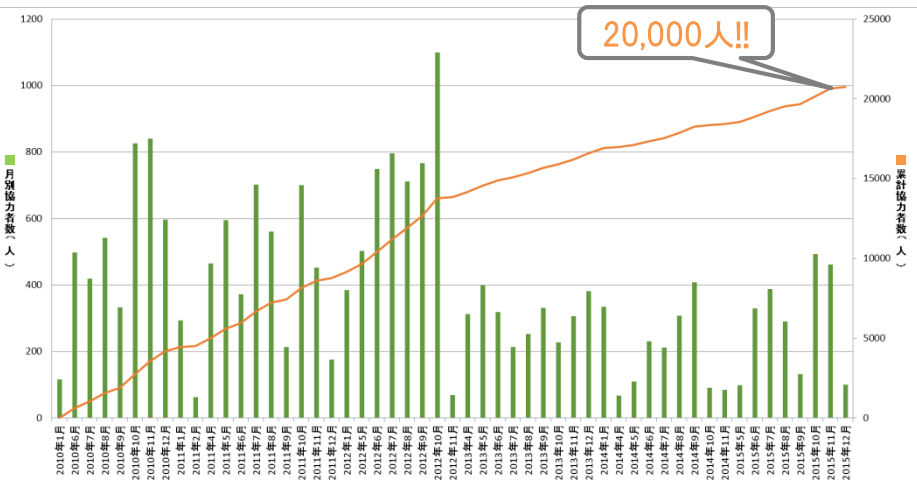


ご協力いただいた方は60代70代の方が大半を占めています。男女比でみると女性のほうが多ようです。

山形県コホート研究 協力者20,000人突破!!

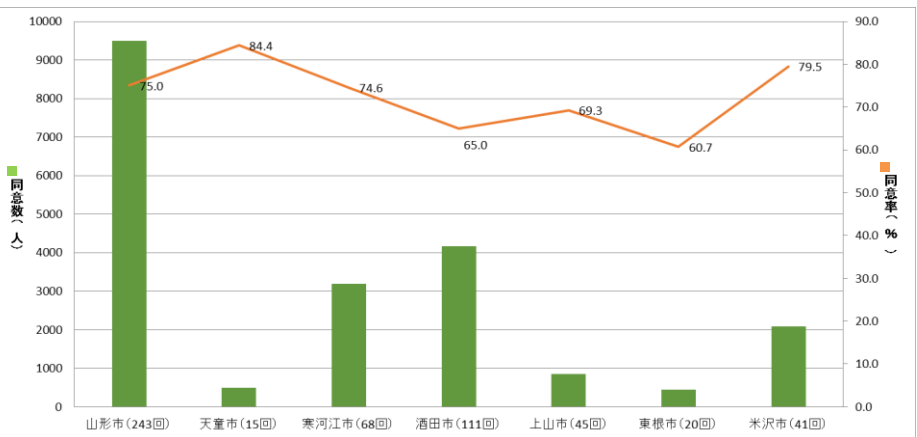
11月7日に研究協力者20,000人を突破いたしました。開始より6年で20,000人の方にご協力いただくのは、この種の研究では大変難しいことです。これまで、特定健診会場にて研究について説明させていただき、約73%の方にご賛同、ご協力をいただきました。この73%という数字は、他県で同じ研究をしているところと比べてみても非常に高い同意率を誇っております。さらに、皆さまにご記入いただいているアンケートも約94%の方よりご返信いただいております。多くの山形県民の方々から医療の発展のために研究協力をいただいていると感じます。山形の未来の医療のため、1日でも早く結果が出せるようスタッフ一同決意を新たに、ますます研究にまい進していきます。

○研究協力者数(累計)



※上記グラフは遺伝子解析同意者数となります。

○市町村別研究協力者同意率



※上記グラフは遺伝子解析同意者数となります。

○感謝状贈呈式が開催されました



12月8日パレスグランデール(山形市)にて、本研究協力者20,000人を突破したことを記念し、感謝状贈呈式が開催されました。この式は、本研究の調査を実施するうえで、ご尽力いただいた各市町村及び各健診機関等の協力機関へ山形大学医学部より感謝の意を込めて感謝状を贈呈したものです。式では、本研究代表者の嘉山孝正のあいさつの後、協力機関へ感謝状を贈呈。国立がん研究センターがん予防・検診研究センター長の津金昌一郎先生より「コホート研究の意義」についてご講演いただきました。(津金先生には山形大学客員教授として研究推進に関わっていただいております)

当日は、山形大学医学部職員、学生など多数参加。本研究協力者が20,000人を突破し節目の時を迎えることができたことへ感謝しつつ、今後の調査の更なる推進に向けて決意をかためる式となりました。



嘉山孝正(山形県コホート研究 研究代表者)

本事業には山形県のすべての医療人が取り組んできました。ご協力いただいた研究協力者の皆さま、各行政の方々、各市町村医師会の方々には心からお礼を申し上げます。皆さまに還元できる、後世に影響を与える研究業績を出すべく、研究者一同一丸となり取り組んでまいります。

津金昌一郎(国立がん研究センターがん予防・検診研究センター長)

コホート研究はその60年以上の歴史の中で国民の健康の維持・増進に貢献してきました。次世代のコホート研究である本研究は、これからの医療の主たる課題のひとつである個別化予防への貢献が期待されるばかりでなく、山形県の健康施策立案のために必須の研究基盤であると考え、期待を寄せています。



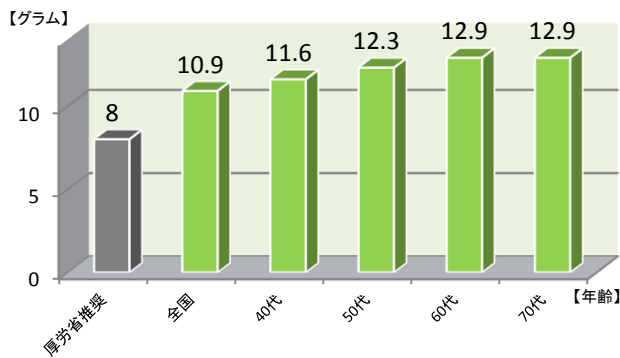
もう一度見直しましょう、食生活

「塩分を摂りすぎると血圧が高くなる」という話を耳にしたことがあると思います。実際のところ、塩分を摂りすぎると血圧が高くなり、高血圧は様々な重大な病気の危険因子です。厚生労働省は日本人の塩分摂取目標量を『1日あたり男性8.0g未満、女性7.0g未満』と設定しています。この数字、皆さんは多いと思いますか、少ないと思いますか？

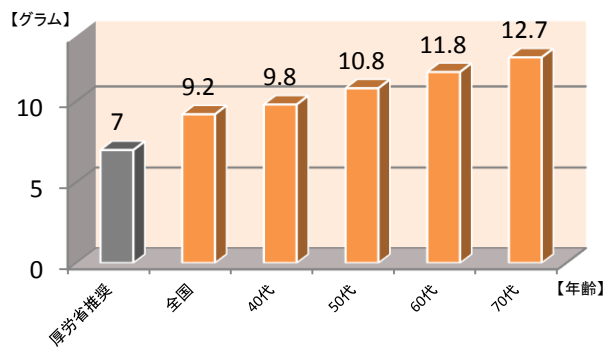
塩分摂取量を測る方法はいくつかありますが、私たちは研究にご協力いただいたある市の方々の日塩分摂取量を尿検査から算出しました。その結果が下記のグラフです。グラフを見てみると、どの年代でも全国平均よりも多く、更に年代が上がるごとに塩分摂取量が多くなっていて、厚生労働省の目標値には遠く及ばない現状です。私たちの住む東北地方は、1950年ころの研究では1日当たり26g程度摂取していたとの報告もあります。その頃に比べれば減少傾向にあるといえそうですが厚生労働省の設定する目標値に比べると、まだまだ我が県は塩分摂取量が多い地域であるようです。

世界ではどうでしょう。世界保健機構(WHO)は塩分摂取量5.0g/日未満を推奨しています。塩鮭一切れにお味噌汁一杯、それに少し漬物を加えた日本の典型的な朝ごはんですでに5.0gに達してしまいます。塩分を含むものを全くとらないようにする必要はありません。ただ、その量をうまく調節して今日の食事から見直してみませんか？

推定一日塩分摂取量 男性平均値

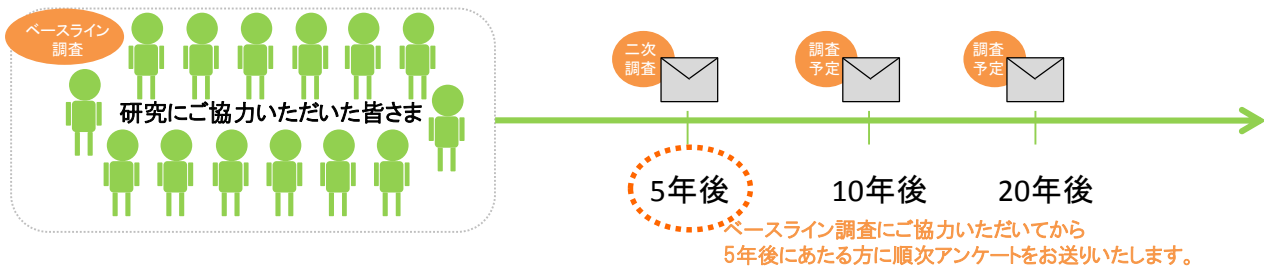


推定一日塩分摂取量 女性平均値



ベースライン調査終了・二次調査スタートのお知らせ

平成21年度天童市よりスタートした本研究も6年目を迎えた今年度を以て、ベースライン調査を終了することとなりました。山形大学医学部では、10～15名のスタッフで健康診断の会場に出向き、皆さまに研究への協力をお願いしてきました。6年の間に参加した健康診断は543回、研究協力者は20,000人を突破。調査を実施した市町村は、天童市、山形市、上山市、寒河江市、東根市、酒田市、米沢市の7市となりました。研究にご協力いただいた皆さまをはじめ、協力機関、本研究調査に携わっているスタッフ、そして多くの山形県民の皆さまのご協力のもと無事ベースライン調査を終了することができましたこと感謝申し上げます。今後は、ベースライン調査にご協力いただいた方を対象とした二次調査がスタートします。順次アンケートをお送りいたしますので、今後とも本研究にご協力いただけますようお願い申し上げます。



皆さまの同意を確認させていただいたスタッフの山本ツナ子さん

【山形大学医学部スタッフの感想】

平成21年度から同意書の個別説明を担当しました。健診の流れを滞りなく進めるために、限られた時間内の対応なので、一期一会の心境で臨みました。面倒でないかと戸惑う項目について、その必要性を説明し、理解し同意に至った時は互いにほっとしたものです。

「親、兄弟も癌なので役に立ちたい」「この歳になって世のためになれる」とか、帰り際「山大ガンバレ」とエールの声を聴くにつけ、多くの同意者の方々の尊いご厚意に報いるためにも成果を祈る気持ちです。



山形大学医学部 メディカルサイエンス推進研究所 ゲノムコホート研究部 コホート推進ユニット

〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2

TEL: 023-628-5256 FAX: 023-628-5197

受付時間: 午前9時-午後5時(土日祝日は除く)

メディカルサイエンス推進研究所 Web サイト

URL: <http://www.id.yamagata-u.ac.jp/IPMSR/index.html>